



南条つ子

南条つ子は 進んで学ぶ子
思いやりのある子
かっぱいやりぬく子

南条小学校だより R1.122 No.78

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ 2年生 英語

11月28日(木)、2年生がアンナ先生の英語の授業を受けました。動物の名前や鳴き声について、英語での言い方を習いました。みんなとても楽しそうでした。



○ 1年生 あきフェスタ

11月29日(金)、1年生が、南条こども園の年長さんを招いて、「あきフェスタ」を行いました。生活科の学習で集めたどんぐりや松かさ(まつぼっくり)などを使って遊び道具を作り、「わくわくけんだま」や「かわいいあくせさりー」などのコーナーを8つ設けて、自分の担当するコーナーで園児を迎えました。園児は、お店巡りカードを持って順番に各コーナーを回り、とてもうれしそうにゲームやおもちゃで遊んでいました。また、最後に、『きらきら星』の演奏のプレゼントもしました。園児からは、「楽しかった」という感想がたくさんあり、満足してもらえたようです。

他にも、司会やあいさつ、コーナーの説明など、とても上手にできており、子どもたちの確かな成長を感じることができました。



○ 読書月間終了

11月は、読書月間でした。いろいろな取組をしましたが、南条図書館司書の三田村さんには、ブックトークをしていただきました。その三田村さんが、「南条小学校の児童の来館が増えました。また、ブックトークをしてくださった方だと声をかけてもらえます。できればもっとたくさんの方に、図書館に足を運んでほしいです。待っています。」とおっしゃっていました。

- また、「親子読書」でも、保護者の皆様に、大変お世話になりました。感想を掲載します。
- 子どもたちみんなのことを思いながら読み、思わず涙がこぼれました。
- 今回読んだ本のように、自分の子どもにも、友達を思いやり、許し合える子になってほしいです。大人になるほど難しいことだと感じました。
- おもしろい本を読んだら、どんな内容だったか教えてくれるので、いろんなお話の世界に入れて楽しいです。○○ちゃん、ありがとう。
- 困っている友達がいたら助けてあげられる勇気ある子だと思いました。そういう子になれるといいね。
- 子どもに読んでもらってイメージするのと、自分で読んでイメージするのでは、状況や風景が違って感じます。同じ本でも感じ方が変わるのは、おもしろいです。

「親子読書」にご協力いただきまして、ありがとうございました。

お気付きですか？

この「南条つ子だより」ですが、10月の途中の頃から、それまで発行したものよりも少し手を加えてあります。それは、漢字にルビ(ふりがな)が振ってあることです。(同じ紙面で一度ルビを振った漢字には、ルビがないことがあります。)下の学年のお子様ほど意味が分からない言葉も多くあると思いますが、小学生でも読むことができるようにしました。

もしよろしければ、内容にもよりますが、できればお子様と一緒に読みください。(親子読書の継続にもなります。)そして、お子様に関する行事などについて、会話の話題にさせていただきたいと思っております。また、お子様に読んでもらってもかまいません。読んでいながら、同じ漢字でも、いろいろな読み方があるということに気付いたり、習っていない漢字でも、自然に読むことができるようになったりすると思っております。

この学校だよりを、上手に利用していただけると、とてもうれしいです。

○ 全校集会 校長の話

12月2日(月)の全校集会では、人権週間(12月4日～12月10日)を前にして、いつもの話の感じとは全く違い、重々しい内容の話をしました。松谷みよ子さんの『わたしのいもうと』を読み聞かせ、いじめについて考えてもらいました。そして、いじめをしてはいけない、いじめを許さないということを伝えました。子どもたちの心に届いてほしいです。

『わたしのいもうと』のあらすじ

新しい町へ引っ越し、新しい学校に通いはじめた小学校4年生の妹は、ふとしたことから、言葉がおかしいと笑われ、跳び箱ができないといじめられ、クラスの子たちから無視されるようになります。遠足でもひとりぼっち。やがて妹は、学校へ行かなくなり、ご飯も食べず、口もきかず、部屋にとじこもるようになります…。最後の、「私をいじめた人たちは、もう私を忘れてしまったでしょうね。遊びたかったのに、勉強したかったのに。」が、心に刺さります。